

古き自己が死んで
新しき自己に
生まれかわる

令和

迎春

四年

小山法城

浄土真宗本願寺派布教使



報恩寺
HONNINJI

■明けましておめでとうございます！今回の法語は新年らしい大きなテーマですね～。ただ、言わんとすることは共感するんですが、真面目に考えるとめんどくさくなって..。そんな人も多いのでは？

うむ、今年も宜しく！新しいスタートとしてピッタリな目標だろ？ただ、君が正直に言うように、実はどんなにこっちが素晴らしいと言われても、人は現状の自分を変えることに消極的だ。変革にエネルギーを使うより、現状維持がラクだからの。

■世には自己啓発本も沢山ありますが、仏教ではこの法語のような自己変革はどう考えるのでしょうか。

仏法は世俗のモノサシを問い直す「鏡」なんだ。王子の生活を捨て求道者になった釈尊から、20年の修行から挫折して念仏に救われた親鸞、その他仏教者には自己変革を体現している人も珍しくない。

この小山氏の指摘も、自分が抱えている煩惱や執着に気づき、そこから脱して仏の悟りを求めていくという路線としてもまちがいでない。初期仏典にはそういう具体的記述も多い。ただしその実践となると家庭や社会生活の中では実に難しいぞ。

本当に生まれ変わる、というのはこの身体をおさらばしたあとのこととも受け取れる。なにしろ真宗の教えでは阿弥陀の本願力に生かされとるからな。

■ま、まず、おさらばの前として、自分が変わるとは、そもそも何が起こることをいうんでしょう？

ウム！「心を入れ替えて」のような人生訓や心理面の視点だけではたぶん見落とすことがある。

例えば、世界で初めて酵素「レニン」の遺伝子解読に成功した分子生物学者・故村上和雄氏は、

「心を入れ替えるとは、心の変化により、いままで眠っていた遺伝子が活性化することである」「ある環境に巡り合うと、それまで眠っていた遺伝子が『待ってました』と活発にはたらき出すことがあり、そういうとき人は変わることができる」「新しいものにふれることは、OFFになっていたよい遺伝子を目覚めさせる絶好の機会」と言っている。

新しく生まれ変わるには、一度死なねばならん。生物学的には、利己的遺伝子に対して利他的遺伝子

などと様々な遺伝子の OFF/ON スイッチが切り替わることと言える。氏はよき遺伝子が目覚める要因に「笑い」「慈悲心」「祈り」「感謝」「生命の危機」などを挙げる。進学、就職とか外的変化も作用する。

■人は遺伝子の数%しか目覚めていないって聞いたことがあります。完全に目覚めた人をブツダ、覚者と呼ぶんでしょ？利他 100%状態なんでしょうね。

それは往生した後の楽しみにしておくといい！

しかし今でも、小さな気づきとか清々しく晴れやかなときたまにあるだろ？読書や映画やライブに出会って感銘したとか、愚痴を聞いてもらってスッキリしたり、入浴中に何か閃いたりとか。

日本語では「腑に落ちる」だの「ハラでわかる」などと言うが、それは体のこわばりが緩んで呼吸が深くなることだ。それが考え方や言葉使い、行動にまで変化を及ぼすし、逆に日々の習慣を変えていくことで、何か少しわかってくるようなこともある。

以前にあるご門徒さんが、お寺のお聴聞から帰ってきた姑が人が変わったように穏やかになったと述懐されたが、つまりその法座はこの身まるごとに響いたんだろう。オレにはそんな説教はムリだがな！

■実は、あの時からお仏壇に手を合わせるようになったんですよ。おかげさまだったな～と。

それは感心感心！君もだいぶ顔つきが変わったの。病気に加え、仕事も人間関係もストレスフルだったろう。でももしかしたらそれも、身のうちから湧き出る声が「このままではもうムリだ」と抗い訴え、じぶんをつくりかえようと潜在的にどこか光を求めてたからじゃないのか？

当たり前の価値観・我執というヨロイが破られるときは、オノレの努力想定を超えたところで、時に逆境として訪れたりすることもある。しかしそれは、このいのちをまるごと救うという、仏の願い、光明い働きのなかもしれない。悲しみ苦しみも不安も消えないまま、その意味が変わってきたら？

真実とは、まるで昏い空の明け星のように、どうしてもいのちを明るい方へ送り出すものだと知って、今年も共に歩もうな！（文責：報恩寺 林 暁）